

2011年度 学校関係者評価報告書

常翔学園中学校・高等学校

2011年度の学校自己評価に基づき、学校関係者評価委員の方々から評価と提言を頂きましたので報告いたします。

<学校関係者評価委員会>

委員会は後援会会長・後援会副会長（2名）・学園評議員・学園本部職員の5名の方で構成されています。

分類	学校関係者評価委員の評価と提言
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 財務関係中の評議員会、理事会の役割、機能についての評価が低く少し残念です。報告会が開催されているので各先生方も興味を示してほしいと思う。（自己啓発につながると思う。）素晴らしい事は、教職員連携が取れている事、学校の情報公開が出来ている事。先生方の横のつながりが立派だと思う。子供達も安心できるのではないのでしょうか。 ○ 私学にとって、建学の精神は非常に大切。生徒、教職員間に浸透してきていることは評価できる。キャリア教育の原点が「建学の精神」に起因することをさらに伝えて欲しい。教職員連携を大学と同じように推進して頂きたい。経営の分かる教員、教育がわかる職員を目指して。また、財務問題は非常に大切なこと。研修や報告会は必要と考えます。 ○ 本校では、職員会議をはじめ、各種研修会や学校行事を通じてさまざまな情報を共有し、教職員が一丸となって取り組む体制が定着している。教育現場の職員が特に取っ付き難い財務状況や私学をとりまく情勢に関しても、それに特化した研修などで知識の修得に努めている。複数の学校を併設する法人というスケールメリットを生かした運営も行う中、学園内設置の中高大連携による学校（学園）運営の充実には、まだまだ課題が多く、大学教員との相互理解を深める難しさを克服しなければならない。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的には、優れているのではないのでしょうか。学校教育に対しては、各先生方の努力が伺える。その他項目でも、子供達が学校行事、部活動、ボランティアを通じてより成長できるものと信じている。 ○ 情報モラルの項目は評価できる。携帯電話を含め、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの普及によりモラル、マナー指導は大切である。学園内

<p>教育内容</p>	<p>大学の専門家に指導依頼するのも一つの方法ではないでしょうか。また、障害者を含む人権教育についても学園内大学の専門家による講演、啓蒙活動も必要と考えます。健康・食育の項目は非常に良い。時間をかけて地道に取り組んで欲しい。</p> <p>○ 大規模校ならではのバラエティに富んだコース編成とカリキュラムのほか、スケールメリットを活かした教育施設・設備などで高い評価を得ている。また、本校の教育の理念である職業観の育成に通じる本校オリジナルのキャリア教育は、他校の追随を許さないものである。その他、中高教育では稀な充実したシラバスに基づく教育など、今後もさらなる充実を期待する。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>○ 生徒指導についても生徒達の事を想い指導されていると思う。各保護者にも理解頂ければ、より一層生徒達・先生方との信頼関係が深まってくると思う。</p> <p>○ 伝統の生徒指導は、学園に30数年勤務したものとしてその素晴らしさを実感している。この伝統は是非とも継承願いたい。家庭との連携は困難な面もあるかもしれませんが、根気よく指導基準を設けるなどして実施して欲しい。中・高校存立、持続的発展の基礎的な面もあると考えます。</p> <p>○ 本校は府内でも有数な大規模校でありながら、きめ細かい生徒指導が高い評価を得ている。生徒の登校から下校に至るまで、近隣住民とも調整を図り、地道な指導を継続している。進路指導やカウンセリングなどについても、生徒のニーズにあった体制作りを行っている。今後は、年々高くなる保護者からの要望や意見をどのように受け止め、いかに生徒の成長につなげるかを考える必要がある。</p>
<p>教員研修 ・資質向上</p>	<p>○ 教員同志の連携はとれているものの、各先生方の自己知識のレベルアップを計って頂きたいと思う。研修も大切だと思う。しかし、研修後の自己意識改革が日々の成果にあらわれてくるものと思う。</p> <p>○ 教員の質・レベルがその中・高校のレベルと言っても過言ではない。若手、ベテランとも研修での成果を発表する機会を設け、情報共有を図って欲しい。これは是非ともお願いしたい。</p> <p>○ 本校では、従来から教職員研修を年間の行事予定に組み込み、全教職員が参加する形で実施し、その取り組みは高く評価できるものである。具体的には、授業力向上、進路指導、生徒指導、保護者対応、財務情報などについて、本校の卒業生や関係する企業・団体などの協力を得て、バラエティに富んだテーマを取り上げている。この取り組みを今後とも継続して生徒の成長に活かすことはもとより、私学をとりまくさまざまな情勢をタイムリーに共有するための研修会を実施していただきたい。</p>